

月	週	小単元・項目	時数	主な目標	重要 観点	評価方法	指導法の工夫	学習のアドバイス
4	2	明日(詩)	2	<ul style="list-style-type: none"> 好きな言葉や表現を見つけ、気持ちが伝わるように朗読しよう。 登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して作品を読み取ろう。 伝統的な言語文化に親しもう。 	②		<ul style="list-style-type: none"> 小グループでの表現活動を取り入れる。 心情曲線を使つての読み取り活動。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで、工夫して、詩の群読を楽しみましょう。 小説を読むときは、読みの難しい漢字にチェックを入れるなど、CDを聞くときにあらかじめ準備をしておきましょう。
	4	アイスプラネット(小説) ■漢字を確認しよう ■季節のしおり 春	5		④ ⑤ ③④			
5	1	枕草子(古文) ■自分流枕草子を書こう	3	<ul style="list-style-type: none"> 作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣と比べてみよう。 伝えたい事柄が効果的に伝わるように、説明の仕方を工夫しよう。 類義語や対義語について考える中で、言葉の幅を広げよう。 話の要点に注意しながら、メモを取る練習をしよう。 	②④		<ul style="list-style-type: none"> 音読の工夫(一斉読み・列読み・男女読みなど) フローチャートを用いた書き方指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典を読む際に、まず難しく感じるのが歴史的仮名遣いです。上手に読めるようになるコツは、とにかく一つの文章に読み慣れることです。自然に読めるようになるまで何度も繰り返し練習しましょう。
	4	説明のしかたを工夫しよう ■言葉1 類義語・対義語・多義語 ■要点を整理して聞き取ろう	4		③			
6	1	やさしい日本語(説明文) ■漢字を確認しよう	5	<ul style="list-style-type: none"> 文章の全体と部分の関係や具体的事例の役割などに注意して、筆者の主張を読み取ろう。 聞き手にとってわかりやすい資料を工夫してつくる方法を考えよう。 聞き手の知りたいことを想定し、論理的でわかりやすい構成を考えて説明しよう。 短歌への理解を深め、そのリズムに親しもう。 	④ ⑤		<ul style="list-style-type: none"> 意味調べによる言語活動の充実。 段落をまとまりとして認識させて読み取り活動を仕組む。 グループを利用した表現活動で、どの生徒にも無理のない活躍の場を準備する。 短歌の創作および短歌に基づいた鑑賞文(物語)を創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文にはときとして中学生には聞き慣れない言葉が使用されていることがあります。事前の意味調べをしておくことで、わかりやすくなることがあります。 発表するときは大きな声で、前を向いて話ができるよう、発表原稿は覚えておく方が良いでしょう。 短歌は短い定型詩です。文字にはなっていない部分を想像しながら味わうとより楽しめるでしょう。
	4	印象に残る説明をしよう(発表) ■熟語の構成	5		②			
	5	新しい短歌のために(短歌) ■短歌を創作しよう ■短歌十二首	4		④ ③ ③④			
	6	言葉を選ぼう(言葉) ■小さな物語を作ろう ■文法への扉1	2		③			
7	1	メディアと上手に付き合うために(情報)	5	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の持つ意味や語感を比べることで、言葉の意味について深く考えよう。 日本語の決まりについて学ぼう。 メディアの特徴を理解し、メディアとのつきあい方について考えよう。 メディアの特性や違いに注意しながら情報を集めてみよう。情報を比較したりまとめたりする中で、自分の考えを深めよう。 本に親しみ、自分の正解を広げよう。 伝統的な言語文化に親しもう。 	⑤ ④ ③	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動を通じて、言葉の豊かさに気づかせる。 文法学習の振り返りによる定着を図る。 段落のまとまり二季をつながら読み取る活動を仕組む。 論説文を通じて自分の生活を振り返り、問題意識をもてるような授業展開を工夫する。 読書活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章を読むときは、接続語や指示語に注意しながら読みましょう。段落を意識して、何が書かれているのかを整理しながら読むと良いでしょう。 読み物教材を読むときは、その題材に興味をもち、新しいことを知りたいという気持ちをもつことが大切です。物語の時は存分にその世界を楽しみましょう。 	
	3	気になる「あの人」を探ろう(読書) 旅する絵描き(読書) 五重塔はなぜ倒れないか(読書) ■読書案内 ■季節のしおり 夏	5		④ ④ ④			
	4	益土産(小説) ■漢字を確認しよう	5		④ ⑤			
	5	字のない葉書(随筆) ■言葉2 敬語	3		④ ⑤			
9	1	気持ちを込めて書こう(手紙) ■相手の立場を尊重しよう ■季節のしおり 秋	4	<ul style="list-style-type: none"> 人物の描写などに注意して、それぞれの人柄や心情を読み取ろう。 作品に描かれている優しさや温かさなどを、表現に即して読み味わおう。 父親に対する筆者の思いを読み取り、自分の考えをもとう。 日常生活を振り返り、自分の言語活動を見直そう。適切な敬語が使えるようになろう。 	③ ② ③④	<ul style="list-style-type: none"> ワークの資料集を活用して、時代背景を捉えさせる。 身近な人との会話を想起させ、日常生活での敬語に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生には是非味わって欲しい不朽の名作2本です。そこにあらわれた作者の世界観をかみしめて味わいましょう。 戦争についての読み物を読むときは、遠い昔のこととして読むのではなく、自分の感情を寄り添わせて読んでみましょう。新しい悲しみを感ずることでしょう。 	
	4	君は「最後の晩餐」を知っているか ■漢字を確認しよう	4		④ ⑤			
	5	音読 平家物語(古文・音読)	1		②④			
	6	仁和寺にある法師(古文) ■係り結び	2		②④ ⑤			
10	1	漢詩の風景(漢詩・解説) ■律詩について ■人物の特徴とらえて論じよう	3	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わおう。 漢詩を読み、詩に歌われている情景を想像し、昔の人の心情に触れる。 「扇の的」に登場する人物の特徴をとらえて、どのような人物かを論じる文章を書こう。 司会や提案者などの役割を決め、目的に沿って討論しよう。 文章を通して、筆者が何を主張しているのかを読み取ろう。 根拠となる事実を確かめながら、文章の構成や表現の仕方を捉えよう。 	②④ ⑤ ④	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩を学ぶ上での基本的な決まり事や、学習準備として行っておく。 CDを聴いて、漢詩のリズムに触れるとともに、中国語の朗読を聴いて興味をもつ。 ワークシートを活用しての説明文の読み取り。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩について学ぶ前に、プリントを使って漢文の決まりを学びます。 自分の立場を考えながら、相手の言い分にも耳を傾けながら、自分の意見を主張できるようになりましょう。 事実と意見を読み分けながら、内容を把握するようにすると長い文章でも迷わずに済むでしょう。 	
	4	話し合って考えを広げよう(討論) ■文法への扉2	5		②			
	5	モアイは語る ■事実を示して意見を書こう	2		⑤			
	6	漢字を確認しよう ■季節のしおり 冬	2		⑤ ③④			
12	1	立場と根拠を明確にして書こう(意見)	4	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な言語文化に親しもう。 立場と、それを支える根拠を明確にして、構成を工夫しながら意見文を書こう。 書いた文章を読み返し、読みやすわかりやすい文章になっているか推敲しよう。 文脈の中で、漢字を使い分けられるようになろう。 	③		<ul style="list-style-type: none"> フローチャートを活用して、意見文を書くための準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えるためには、明確な根拠が必要です。日頃から新聞を読む習慣を身につけて、自分の中に、情報を蓄積しておくといざというときに役に立つでしょう。
	4	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	2		⑤			
1	2	走れメロス(小説) ■表現を工夫して書く ■漢字を確認しよう	7	<ul style="list-style-type: none"> 作品を読み、登場人物の行動や考え方について自分の考えをもとう。 描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わおう。 	④ ③ ⑤		<ul style="list-style-type: none"> CD朗読を聴いて、自分たちでも読み直し、初読みの感想をもたせる。 プリントを活用して、長い作品を飽きず迷わず読めるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に載る文章としては比較的長い小説です。読みにくい漢字は事前にチェックし、意味調べをしておくとう良いでしょう。 小説は、読み込むほどに、また違った味わいが出てくるものです。自分で何度も読んでみましょう。
	4	■文法への扉3 表現の仕方を工夫して書こう(物語創作) ■言葉3 方言と共通語 ■漢字3 送り仮名	4		③ ⑤ ⑤			
2	1	身近な人の「物語」を探る(対話)	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の決まりについて学ぼう。 気持ちや気持ちの変化が効果的に伝わるように、ある視点を定め、表現を工夫して書こう。 地域による言葉の違いを知り、自分たちの言葉について考えるきっかけにしよう。 漢字の送り仮名の主な原則と例外について学習しよう。 	⑤		<ul style="list-style-type: none"> 書いた物語を友達と読み合うことで、自分とは異なるものの見方を体験させる。 方言辞典を活用して、広島の方言と共通語の違いに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の日常を俯瞰して見られるように、常に客観的な視線をもつようにならねばなりません。
	4	言葉の力(随筆)	3		④			
3	1	身近な人の「物語」を探る(対話)	6	<ul style="list-style-type: none"> 話の構成や展開などに注意して、話の要点を聞き取ろう。 事実や意図が効果的に伝わるように、構成や表現を工夫して書こう。 言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深めよう。 	②		<ul style="list-style-type: none"> 他人の話聞く楽しさを体験させる。 文章の比喩性に気づかせ、はっとする体験を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から、人の話に耳を傾ける癖をつけておきましょう。
3	言葉の力(随筆)	3	④					
計			120					

※書写配当20時間は、学校行事および授業進度との兼ね合いを見ながら随時行うこととする。

観点 ①関心・意欲・態度 ②話すこと・聞くこと ③書くこと ④読むこと ⑤言語事項 ※観点①は、すべての単元において評価する。